



2027年度

東京音楽大学大学院
音楽研究科修士課程

学生募集要項

一般選抜

社会人特別選抜

外国人留学生特別選抜

2027年度修士課程 学生募集要項 目 次

I	修士課程概要	
①	ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー	1
②	担当教員	2
③	教育課程	2
II	試験概要	
①	アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）	3
②	募集人員	3
③	出願資格	4
	一般選抜	4
	社会人特別選抜	4
	外国人留学生特別選抜	5
④	日程一覧	6
⑤	試験場	7
⑥	選抜方法	7
⑦	出願手続	8
	出願の流れ	8
	出願書類一覧	10
	卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項	11
⑧	外国学生（外国籍）の方へ：在留資格「留学」の取得について	13
⑨	合格発表	14
⑩	問い合わせ先	14
III	試験科目	
①	共通科目試験	15
②	専攻科目試験	16
	器楽専攻	17
	声楽専攻	20
	作曲指揮専攻	21
	音楽文化研究専攻	21
IV	入学手続	
①	入学手続	24
②	学費その他の納入金（2026年度入学者実績・参考）	24
V	奨学金・経済的支援制度	25
VI	成績開示	25
VII	個人情報取り扱いについて	25

I 修士課程概要

1 ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

大学院修士課程においては所定の単位を修得し、かつ以下に示す能力を身に付け、学位審査試験に合格した者に、修士(音楽)の学位を授与します。なお、学位審査試験は修士演奏・修士作品あるいは修士論文(一部専攻においてはこれらの組み合わせ)及び最終試験によって行います。

- 1) 高度な専門的知識・技能と研究能力を身に付け、自立的で質の高い音楽活動を展開できること。
- 2) 旺盛な国際感覚を持ち、多様な音楽的価値観を尊重できること。
- 3) 現代社会における音楽芸術のあり方について考察し、音楽による社会貢献ができること。

カリキュラム・ポリシー

● 器楽専攻

- ・学部で習得した演奏能力を発展させ、レパートリーを拡充します。
- ・時代や地域、演奏形態、楽器の特性、ジャンル等の様々な要素を総合的にとらえた高度な作品解釈力、アンサンブル能力の獲得を目指します。
- ・学生それぞれが目指す将来の職業(演奏家や指導者など)に対応する能力が身につくようにします。
- ・2年次にはリサイタル形式の修士演奏を行います。

● 声楽専攻

- ・学部で習得した演奏能力を発展させ、レパートリーを拡充します。
- ・時代や地域、演奏形態、ジャンル等の様々な要素を総合的にとらえた高度な作品解釈力、アンサンブル能力の獲得を目指します。
- ・声楽にとって必要な外国語の能力を獲得し、日本語も含めた正しい発音、発声法、歌唱法に基づく芸術的な表現と言語能力を獲得します。
- ・オペラ研究領域では、朗読、立ち居振る舞い、パントマイム、バレエ等の身体表現を学び、舞台での実践力を修得します。
- ・学生それぞれが目指す将来の職業(演奏家や指導者など)に対応する能力が身につくようにします。
- ・2年次には修士演奏を行います。

● 作曲指揮専攻(作曲研究領域)

- ・自らの个性的な創作の基盤ないしは起点となるべき課題を定め、自主性をもって能動的な研究活動、研究発表を行うことにより、総合的な作曲能力の向上を目指します。
- ・最先端情報処理技術を探求し、進化し続けるマルチメディア環境を学び、その実践に取り組みます。
- ・2年次には修士作品を作成します。

● 作曲指揮専攻(指揮研究領域)

- ・指揮者というものの存在意義を再認識し、高度かつ機能的な技法を学び、深い知識や教養の獲得を目指します。
- ・指揮者として自分を見つめ、自分に必要なことを自ら判断する能力を身につけます。
- ・指揮の技法・音楽的な知識・教養はもとより、広く人間同士のつながりが大切であることを学びます。
- ・2年次には修士演奏としてオーケストラを指揮します。

● 音楽文化研究専攻(音楽教育研究領域)

- ・音楽教育に関わる専門的な知見を身につけ、研究能力と実践力を修得します。
- ・社会における様々な音楽文化活動の展開を可能にする幅広い知識を身につけ応用力を獲得します。
- ・音楽教育、音楽文化活動に関わる課題を設定し、修士論文を作成します。

● 音楽文化研究専攻(音楽学研究領域)

- ・音楽学研究に必要な方法論を追究します。
- ・演奏や教育、周辺領域を含む広範囲な視座の獲得を目指します。
- ・学生それぞれが目指す将来の職業(研究者や教育者など)に対応する能力が身につくようにします。
- ・自分の問題意識を明確化し、それに基づいて修士論文を作成します。

● 音楽文化研究専攻(ソルフェージュ研究領域)

- ・楽曲の総合的理解、把握、解釈を可能にする高度な読譜力の修得を目指します。
- ・指導法や教材作成など、ソルフェージュ教育に必要な能力を獲得します。
- ・学生それぞれが目指す将来の職業(教育者や研究者など)に対応する能力が身につくようにします。
- ・各自の専門実技のさらなる修得に加えて、2年次には修士論文を作成します。

● 音楽文化研究専攻(多文化音楽研究領域)

- ・日本を含む世界各地の伝統的な音楽文化を理論と実技の両面から専門的に学びます。
- ・伝統的な音楽文化を生かした新しい音楽文化(作品、演奏、研究など)の創造を目指します。
- ・2年次には、理論研究に重点を置いた修士論文の作成、あるいは、実技研究に重点を置いた作品や演奏を通じた課題研究の作成により研究の成果をまとめます。

● 音楽文化研究専攻(吹奏楽研究領域)

- ・社会における多様な吹奏楽の在り方に関し、幅広い知識を身につけ応用力を獲得します。
- ・演奏や教育など、吹奏楽に関する特定領域についての専門的な知見を身につけ、研究能力と実践力を修得します。
- ・2年次には、理論研究に重点を置いた修士論文の作成、あるいは、実技研究に重点を置いた演奏や作編曲による課題研究の作成により、研究の成果をまとめます。

2 担当教員

大学院修士課程担当教員については、以下のリンクよりご確認ください。
<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/about/teacher>



3 教育課程

修士課程カリキュラムについては、以下のリンクよりご確認ください。
<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/15405.php>



Ⅱ 試験概要

1 アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

音楽の専門的な研究に必要な基盤を備え、高度な技術、知見、研究能力を持ち、かつ社会の現況と今後の動静に対応できる柔軟な資質と強い意欲を持つ人材を求めます（ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーも参照のこと）。

2 募集人員

音楽研究科修士課程 70名（社会人および外国人留学生を含む）

専攻	研究領域	楽器名等	募集人員
器楽	鍵盤楽器	• ピアノ、チェンバロ、オルガン、ピアノ伴奏	36名
	弦楽器	• ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギター	
	管打楽器	• フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン • ホルン、トランペット、トロンボーン、テューバ、ユーフォニアム • 打楽器	
	室内楽		
声乐※1	独唱 オペラ		21名
作曲指揮	作曲※2	• 芸術研究、応用研究	5名
	指揮		
音楽文化研究	音楽教育 音楽学 ソルフェージュ 多文化音楽 吹奏楽		8名

※1 オペラ研究領域を第1志望とする場合に限り、独唱研究領域との併願が可能です。

※2 作曲研究領域については出願時に現代に求められる創造的で多様な芸術創作、そのための先端的なテクノロジーの追求を主軸とする「芸術研究」か、芸術音楽を背景としながら、映像との協同や舞台・ゲーム音楽など、マルチメディアを含む多様な音楽表現を追求する「応用研究」のいずれかを選択してください。

[注] 他の大学院に在籍中の学生で、本学大学院に転入学を希望する場合は、7月31日（金）までにメールにて入試課にお問い合わせください。

メール送付先：nyushi@tokyo-ondai.ac.jp

3 出願資格

一般選抜

次のうち、いずれかに該当する者

- ①日本国内において、大学を卒業した者および2027年3月31日までに卒業見込みの者
- ②大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者および2027年3月31日までに授与される見込みの者
- ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
- ④外国の学校が行う通信教育を日本国内において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
- ⑤日本国内において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程(文部科学大臣指定外国大学日本校)を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
- ⑥外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者および2027年3月31日までに授与される見込みの者
- ⑦指定された専修学校の専門課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
- ⑧文部科学大臣の指定した者
- ⑨本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

※⑨の出願資格で出願を希望する場合、事前に出願資格審査を行います。事前に入試課に問合せ、必要書類を確認の上、2026年9月9日(水)までに所定の申請書と共に提出ください。

※①～⑨に加え、外国籍を有する者は、以下⑩に該当していること(「永住者」を除く)。

- ⑩出願時に日本語能力試験(JLPT) N2以上に合格している者、または、日本留学試験(EJU)「日本語」(読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く)で200点以上を取得している者。なお、音楽文化研究専攻音楽教育研究領域および音楽学研究領域志願者は出願時に日本語能力試験(JLPT) N1に合格している者、または、日本留学試験(EJU)「日本語」(読解、聴解および聴読解)で280点以上および「日本語(記述)」35点以上を取得している者。

社会人特別選抜

①～⑨のうちいずれかに該当し、かつ⑩～⑫のいずれかの条件に該当する者

- ①日本国内において、大学を卒業した者および2027年3月31日までに卒業見込みの者
- ②大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者および2027年3月31日までに授与される見込みの者
- ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
- ④外国の学校が行う通信教育を日本国内において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
- ⑤日本国内において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程(文部科学大臣指定外国大学日本校)を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
- ⑥外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者および2027年3月31日までに授与される見込みの者
- ⑦指定された専修学校の専門課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
- ⑧文部科学大臣の指定した者

- ⑨本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
 - ⑩出願時において大学または研究所等に正規の教職員として勤務し、入学後もその身分を有し、所属長から推薦を受けた者
 - ⑪出願しようとする研究領域に関連した職種に3年以上の勤務経験を有すると本学大学院が認めた者
 - ⑫出願しようとする研究領域に関連した活動を3年以上行っていると本学大学院が認めた者
- ※⑨、⑪、⑫の出願資格で出願を希望する場合、事前に出願資格審査を行います。事前に入試課に問合せ、必要書類を確認の上、2026年9月9日(水)までに所定の申請書と共にご提出ください。

※①～⑫に加え、外国籍を有する者は、以下⑬に該当していること(「永住者」を除く)。

- ⑬出願時に日本語能力試験(JLPT) N2以上に合格している者、または、日本留学試験(EJU)「日本語」(読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く)で200点以上を取得している者。なお、音楽文化研究専攻音楽教育研究領域および音楽学研究領域志願者は出願時に日本語能力試験(JLPT) N1に合格している者、または、日本留学試験(EJU)「日本語」(読解、聴解および聴読解)で280点以上および「日本語(記述)」35点以上を取得している者。

外国人留学生特別選抜

日本国籍を有しない者で、日本の大学を卒業した者(卒業見込みを含む)は、外国人留学生特別選抜の対象とはならない(国費外国人留学生を除く)。

- ①～⑦のうちいずれかに該当し、かつ⑧～⑩の条件のすべてに該当する者
 - ①外国の大学を卒業した者および2027年3月31日までに卒業見込みの者
 - ②外国の大学において学士の学位を授与された者および2027年3月31日までに取得見込みの者
 - ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
 - ④外国の学校が行う通信教育を日本国内において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
 - ⑤日本国内において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程(文部科学大臣指定外国大学日本校)を修了した者および2027年3月31日までに修了見込みの者
 - ⑥外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者および2027年3月31日までに授与される見込みの者
 - ⑦本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
 - ⑧確実な身元保証人がいること。身元保証人は、独立して生計を営む成年者で、志願者の学費と一身上の一切の責任を負うことができる者であること。
 - ⑨出願時に日本語能力試験(JLPT) N2以上に合格している者、または、日本留学試験(EJU)「日本語」(読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く)で200点以上を取得している者。なお、音楽文化研究専攻音楽教育研究領域および音楽学研究領域志願者は出願時に日本語能力試験(JLPT) N1に合格している者、または、日本留学試験(EJU)「日本語」(読解、聴解および聴読解)で280点以上および「日本語(記述)」35点以上を取得している者。
 - ⑩入学時、「出入国管理及び難民認定法」による「留学」の資格を有する者、または長期滞在可能な資格を有する者
- ※⑦の出願資格で出願を希望する場合、事前に出願資格審査を行います。事前に入試課に問合せ、必要書類を確認の上、2026年9月9日(水)までに所定の申請書と共にご提出ください。

4 日程一覧

入学検定料 40,000円

出願および検定料振込期間

2026年9月24日(木)～10月1日(木)出願書類は郵送のみ受付(消印有効)

※外国在住者で日本への郵便到着に不安がある方は、提出書類のPDFを事前にメールで送付することができます。ただし、PDFのメール送付だけでは出願受付はできませんのでご注意ください。

メール送付先：nyushi@tokyo-ondai.ac.jp

試験期間

2026年11月12日(木)～11月15日(日)

- 出願状況により、実技試験の日程が変更されることがあります。
- チェンバロ、オルガン志願者は、入学試験期間中に事前練習を行います。
- 打楽器志願者は、入試期間中に楽器選定および事前練習を行います。
- 日程の詳細は、試験初日の3日前までに、メールで送信する案内を参照してください。試験日時、会場に関する電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。なお、期日を過ぎてもメールが届かない場合のみ、迷惑メールフォルダをご確認の上、入試課までご連絡ください。

専攻	研究領域	11月12日(木)	11月13日(金)	11月14日(土)	11月15日(日)
器楽	鍵盤楽器	ピアノ		実技試験・面接	
		伴奏	実技試験・面接		
	弦楽器	実技試験・面接			
	管打楽器			実技試験・口述試問	
声乐	独唱	共通科目試験 専攻別筆記試験等 ※試験科目は専攻別課題表参照	実技試験・面接		
	オペラ				
作曲 指揮	作曲			作品審査・口述試問	
	指揮		実技試験・口述試問		
音楽文化研究	音楽教育		口述試問		
	音楽学			口述試問	
	ソルフェージュ	ピアノ、声乐、弦楽器実技試験(専攻別課題表参照)	ソルフェージュ 実技試験・口述試問・管打実技試験(専攻別課題表参照)		
	多文化音楽	実技試験・口述試問			
	吹奏楽	実技試験・口述試問			

- 鍵盤楽器研究領域(チェンバロ、オルガン)、室内楽研究領域の実技試験科目日程は出願状況により決定します。

合格発表 2026年11月24日(火) 15:00～11月26日(木) 17:00

Web出願サイトにて発表

入学手続期間 2026年11月25日(水)～12月2日(水)(消印有効)

成績開示申請期間 2026年11月25日(水)～12月2日(水)(必着)

5 試験場

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス (所在地: 〒153-8622 東京都目黒区上目黒1-9-1)

東京音楽大学 池袋キャンパス (所在地: 〒171-8540 東京都豊島区南池袋3-4-5)

※試験場には必ず受験票(共演者、伴奏者、譜めくりは受験票のコピー)を持参し、守衛に提示して入構してください。

6 選抜方法

●アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)に基づき、共通科目試験、専攻科目試験、および出身大学の成績証明書等の各資料を総合して判定します。

※社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜については、研究領域により共通科目試験の一部が免除されます。「Ⅲ試験科目」を参照してください。

受験上・修学上の配慮を希望する志願者について

疾病や障がいなどにより受験時や入学後の修学において特別な配慮が必要な場合、個別の状況に応じて必要かつ合理的な配慮を検討し、適切な支援を行っております。

合理的な配慮を希望される方は、URLもしくはQRコードより内容をご確認の上、申請を期日までに行ってください。

[URL]

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/43807.php>



[期日]

2026年9月9日(水)必着

学校保健法で出席の停止が求められている感染症に関する注意事項について

学校保健安全法で出席停止が定められている感染症(新型コロナウイルス・インフルエンザ・はしか等)にかかり治癒していない場合、その感染症が他の受験者や試験監督者等に広がるおそれがありますので、入学試験を受験することはできません。また、試験当日の検温により発熱があった場合や、通常とは異なる体調不良があり感染症に罹患している可能性がある場合も、受験をご遠慮願います。ただし、病状により医師が伝染の恐れがないと判断した場合は、この限りではありません。上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、原則として、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日の体調には十分に注意してください。

なお、感染状況等により事情が変わった場合には、改めてホームページ等でお知らせします。


7 出願手続

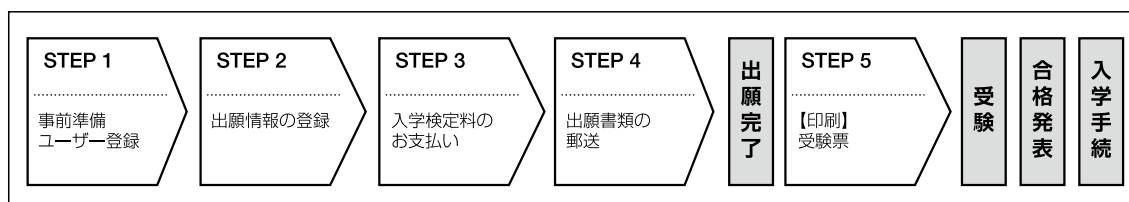
出願の流れ

出願方法はWeb出願のみです。

本学ホームページの「入試案内(大学院)」にある「出願ガイド」内の「出願情報の登録」より、下記の手順に沿って出願を行ってください。

※出願書類の郵送を終えて出願完了となります。

出願ガイド https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/	
--	---



STEP1

① Web 出願にあたっての事前準備（詳しくは「出願ガイド」をご覧ください）

- インターネットに接続しているパソコン、タブレット、スマートフォンのうち、いずれかの機器
- メールアドレス

各キャリアのメールアドレスを使用する場合は、ドメイン「@contact.mescius.com」「@sbpayment.jp」「@tokyo-ondai.ac.jp」からのメール受信ができるように設定を行ってください。
入学試験用に新たに作成される場合はフリーアドレス(@yahoo.co.jpや@gmail.com等)の取得を推奨します。

- プリンター ※
- PDF表示・印刷ソフトウェア
- 本人写真(カラー写真データ)

※ 自宅にプリンターがない場合、コンビニエンスストア等のマルチコピー機を使用してください。詳しい使用方法は「出願ガイド」の STEP 1 事前準備 1.プリンター「印刷方法のご確認」を参照してください。

② 「出願ガイド」からユーザー登録を行う。

同サイト内の「出願情報の登録」の「Web出願サイトはこちら」からWebサイトにアクセスし、「初めての方はこちら」からユーザー登録を行ってください。

※ 外国籍の方はパスポート、在留カードあるいは住民票に記載の氏名を姓(Family Name)名(First Name)の順にアルファベットで入力してください(漢字は不可)。ただし、在留カードあるいは住民票の氏名表記が漢字のみの場合は、漢字での入力も可能です。

フリガナについては、通常使用する読みをカタカナで入力してください。

※ 昨年度以前メールアドレス登録画面で「来年度もこのメールアドレスを利用する」のチェックを入れた方は再登録不要です。以前登録したメールアドレスとパスワードでログオンしてください。

③ 出願書類を確認・準備する。

募集要項に記載されている必要な書類を確認・準備してください。

STEP 2

「出願ガイド」からWeb出願サイトにログオンし、出願登録を行う。

募集要項、「出願ガイド」を確認してから、同サイト内の「Web出願サイトはこちら」にアクセスし、STEP1で登録を行ったメールアドレスとパスワードでログオン後、「出願」から出願登録を行ってください。

(「出願ガイド」：<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/>)

STEP3

入学検定料のお支払い

「コンビニエンスストア」、「クレジットカード」、「Pay-easy」で期限までに検定料をお支払いください。

※検定料のほかに支払手数料が必要です。

STEP4

出願書類の印刷・記入および出願書類郵送

① Web出願サイトから志願票・宛名ラベルをダウンロードし、ページの拡大縮小はせずにA4サイズで印刷してください。

② 本学ホームページ「入試案内(大学院)」の「出願書類ダウンロード」から、受験する入学試験の必要書類を印刷・記入してください。提出前に必ず「出願書類チェックリスト」を使用して、出願書類がすべて揃っているか確認し、他の書類と共に提出してください。

(出願書類ダウンロード：https://www.tokyo-ondai.ac.jp/graduate_school/exam)

③ レターパックライトを使用して、表面に宛名ラベルを貼り、出願書類を郵送してください。出願書類は出願期限最終日の消印有効です。出願最終日に郵送する際、必ず郵便局の窓口を通じて郵送してください。

※レターパックはポスト投函できますが、出願期限最終日に郵送する場合は、郵便局の窓口に出すことをお勧めします。

郵送をもって出願完了となります。

※海外から日本への郵便到着に不安がある方は、事前に提出書類のPDFをメール添付やファイル送信サービスにて「10. 問い合わせ先」のメールアドレスに送付することができます。ただし、PDFのメール送付だけでは、出願受付はできませんのでご注意ください。

STEP5

受験票の印刷と試験日程詳細の確認

東京音楽大学から「受験票印刷のお知らせメール」※が届いたら、受験票の記載事項が志願票に入力した内容と一致しているか確認し、メールの案内に従って「受験票」を印刷してください。試験日程詳細は別途メールにて送信します。内容をご確認の上、試験会場にお越しください。受験票は、試験当日持参してください。

※メールが届かない場合は、Web出願サイトにログオンし「受験票印刷」から印刷してください。

(「出願ガイド」内「Web 出願サイトはこちら」からアクセス)

A. Web 出願サイト(ユーザー登録、出願情報の登録、志願票、宛名ラベル印刷)

<https://lsg.mescius.com/tokyo-ondai/App/Account/login>



B. 出願書類ダウンロード

https://www.tokyo-ondai.ac.jp/graduate_school/exam



出願書類一覧

①出願書類1～2は前頁AのURLから印刷してください。

	出願書類	対象	注意事項
1	志願票	全専攻	検定料支払い手続き完了後印刷してください（拡大・縮小せずA4で印刷）。 ※カラー印刷してください。
2	宛名ラベル		日本国内から書類を発送する場合はレターパックに貼り付けてください(拡大・縮小せずA4で印刷)。 ※カラー印刷してください。

②出願書類3～11は前頁BのURLから大学院修士課程の様式を印刷してください。

	出願書類	対象	注意事項
3	履歴書	全専攻	音楽修学歴は高等学校以降、師事した教師名、および指導を受けた専攻名、科目名、楽器等名を記入してください。
4	研究要旨		入学後の研究テーマおよび内容を具体的に記入してください。
5	曲目記入票	器楽専攻、声楽専攻、指揮研究領域、音楽教育研究領域、ソルフェージュ研究領域、多文化音楽研究領域(実技試験選択者)、吹奏楽研究領域	受験曲目を記入してください。
6	楽器等使用一覧	管打楽器研究領域／吹奏楽研究領域の打楽器志願者	使用楽器を記入してください。
7	セッティング表		本人位置、楽器位置、ピアノ位置等を図示してください。
8	予備質問書(1)(2)	作曲研究領域、吹奏楽研究領域	質問の答えを記入してください。
9	研究業績・活動業績書	社会人特別選抜の音楽教育研究領域志願者	関連書類を添付してください。
10	勤務先所属長による推薦および入学承諾書	社会人特別選抜志願者で、出願資格⑩に該当する者	本学書式を使用してください。
11	出願書類チェックリスト	全専攻	出願書類を郵送する前に各書類が揃っているかチェックし、出願書類と共に提出してください。

③出願書類12～19は志願者本人が作成したもの、または大学等が発行したものを提出してください。

	出願書類	対象	注意事項
12	演奏する楽譜のコピー	管打楽器研究領域/吹奏楽研究領域の打楽器志願者	製本はせず、余白に受験番号と氏名を明記してください。
13	在職証明書	社会人特別選抜志願者	学校、官公庁、企業等の所属長が発行する在職証明書(在職期間は問いません)。自営の場合は、確定申告の控えなど、納税に関する公的な証明書の写しを提出してください。
14	卒業(見込)証明書	全専攻	在籍していたすべての大学(学部、専攻科等)の証明書が必要です(コピー不可)。
15	成績証明書		
16	戸籍抄本	各種証明書の氏名が出願時の氏名と異なる志願者	改姓等により各種証明書の氏名が出願時の氏名と異なる場合、戸籍抄本を提出してください。

	出願書類	対象	注意事項
17	パスポートのコピー	日本国外在住の 外国籍志願者	※氏名・生年月日・パスポート番号・写真・有効期限のページをA4サイズ用の紙にコピーして提出してください。ビザのページではありません。
18	在留カードのコピー または住民票	日本国内在住の 外国籍志願者	※在留カードのコピーを提出する場合は、裏面に記載事項がなくても、必ず表・裏両面をA4サイズの用紙にコピーしてください。 ※住民票を提出する場合は、在留資格・在留期間・在留期間満了日の記載を含むもので、出願時の3か月以内に発行されたものを提出してください。
19	日本語能力の証明書	外国籍志願者の該当者	日本語能力の証明書を提出してください。 ・日本語能力試験(JLPT)の場合：日本語能力試験N1またはN2の「認定結果及び成績に関する証明書」の原本 ※「日本語能力認定書」の提出は必要ありません。 ※日本語能力試験合格証明書の発行が出願期間に間に合わない場合、合格したことがわかるもの(合格画面のスクリーンショット等)の画面を原本の代わりに印刷し、原本をいつまでに提出できるかメモに書いて貼付け、他の出願書類と一緒に郵送にて提出してください。原本は別途郵送してください。 ・日本留学試験(EJU)の場合：受験票のコピー ※成績は、有効期間以内(試験日が過去2年以内)、かつ出願期間最終日までに確認ができるものを有効とします。

【注意】

※外国語(英語を除く)で書かれた証明書や文書等がある場合、日本語または英語訳および公証書を添付してください。公証書は大使館等の公的な機関で発行されたものに限り、証明書の提出方法等について「卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項」をご参照ください。

※学位授与機構によって学位が授与された者は、卒業証明書および成績証明書と併せて学位授与証明書を提出してください。学位取得見込みの場合は学位授与申請受理証明書を提出してください。

※出願後の提出書類の変更は認めません。また、提出された書類や検定料等は返還しません。ただし、住所・氏名・電話番号・メールアドレスに変更があった場合は、速やかに入試課へご連絡ください。

※出願書類がすべて揃っていない場合、出願期間を過ぎたものは受け付けできませんので注意してください。

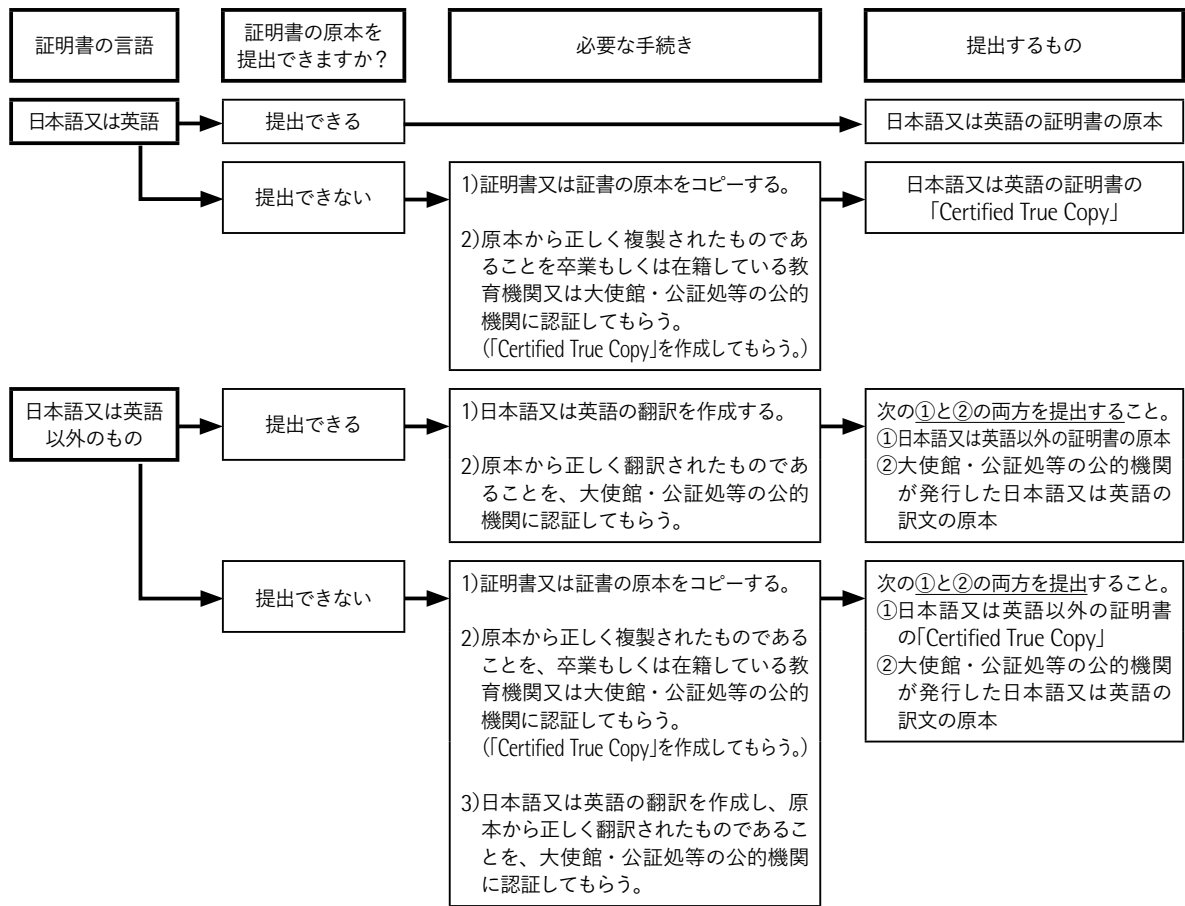
卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項

①中国の教育機関を卒業した方

- ・中国教育部学歴認証センターまたは、中国教育部学歴認証センター日本代理機構 (<http://www.chsi.jp/>)が発行する「学歴認証報告書(英文)」および「成績認証報告書(英文)」を提出してください。
- ・教育機関発行の証明書やその翻訳は出願書類として認められません。
- ・「学歴認証報告書」および「成績認証報告書」は、CHSIから直接「nyushi@tokyo-ondai.ac.jp」にメールで届くよう、手続きを行ってください。英文以外の認証報告書や、出願者本人が受領し、本学へ転送した認証書は無効とします。
- ・認証機関の発行の遅れによって提出が間に合わない場合でも出願が認められない可能性があります。発行まで1か月程度かかるため、時間に余裕をもって発行申請を行ってください。
- ・卒業見込みの方は、教育機関が発行する卒業見込み証明書および成績証明書を提出し、卒業後「学歴認証報告書」および「成績認証報告書」を提出してください。注意事項は「②中国以外の教育機関を卒業した方」と同様です。

②中国以外の教育機関を卒業した方

- ・卒業証明書、成績証明書等の証明書類は原本(卒業もしくは在籍している教育機関が発行し、証明した書類)、または教育機関・大使館・公証処等の公的機関より原本からの正しい複製であるという証明(Certified True Copy)を受けた書類を提出してください。
- ・日本語または英語以外の言語で記載された証明書は、大使館・公証処等の公的機関または、翻訳者としての資格を有する翻訳者による翻訳文を原本に添付してください。
- ・すべての提出書類の氏名・生年月日等はパスポートの記載と一致しているものを提出してください。



(1) 日本に在留する在留資格を有している場合**① 「留学」の在留資格を有している者**

在留期間更新許可申請をしてください。在留期間更新許可申請は、在留期間が満了する3か月前から可能です。ただし、在留資格に該当する活動を行うことなく3か月以上滞在すると、在留資格取り消しの対象となりますのでご注意ください。

また、在留期間が本学入学後まで残っている場合にも、所属する学校に変更があった場合には、変更後14日以内に法務省東京出入国在留管理局へ「所属に関する届出」を提出することが義務付けられています。

② 「留学」以外の在留資格で日本に滞在していて、在留資格「留学」の取得を希望する者

在留資格変更申請をしてください。入学手続完了時に「入学許可書」を発行します。この「入学許可書」を使用し、日本国内で在留資格を変更することが可能です。ただし、「短期滞在」の在留資格で日本に入国している者は、原則として日本国内で在留資格の変更は認められていないので、一度日本国外へ出て「留学」ビザを取得しなければならなくなることもあります。

③ 「留学」以外の長期滞在可能な在留資格を有する者

在留資格「定住」「家族滞在」等を有する方は、在留資格「留学」への資格変更の義務はありません。ただし、留学生対象の各種補助制度への申込および留学生対象の授業の履修はできません。必要に応じて在留資格の更新・変更を行ってください。

更新・変更を行う場合は、現在持っている在留資格の種類により申請方法・書類が異なりますので、最寄りの出入国在留管理局へ問い合わせてください。

[注] 本学入学前に、日本において日本語教育施設または専修学校（日本語学校、大学・短期大学の日本語別科、その他各種専門学校等）に在籍している者は、在留期間更新・資格変更申請の際に、法務省東京出入国在留管理局から、在籍していた教育機関が交付する出席状況証明書の提出を求められます。在籍状況に問題がある場合は、不許可となる場合があります。

(2) 日本に在留する資格を有していない場合

本国の日本大使館または領事館にて「留学」ビザ発給の申請を行ってください。あらかじめ本人または代理人が、法務省東京出入国在留管理局から「在留資格認定証明書(Certificate of Eligibility=COE)」を取得し、これを使用して「留学」ビザ発給の申請を行うと、審査が円滑に行われるとされています。日本に親族や経費支弁者または奨学金支給者がいる場合は、「在留資格認定証明書」交付の代理申請を依頼してください。代理申請を本学が行うことを希望する者は、合格者に案内する必要書類を入学手続時に提出してください。

[注] 在留資格認定証明書(COE)の取得には通常2~3か月程度、COE取得後の在外公館における「留学」査証(ビザ)の発給には約3週間~1か月程度を要します。

入試日程や入学手続きの時期によっては、在留手続きが授業開始日に間に合わず、日本への渡航が遅れる可能性があります。出願を検討する際は、在留手続きに要する期間を十分に考慮し、余裕をもって申請してください。

また、入学時までには渡航が完了しない場合や、4月入学後に一時帰国が必要となる場合があります。その場合、授業が欠席となり単位取得に影響することや、高額な渡航費用が生じる可能性があります。

[注] ビザ取得の審査は法務省が行うため、不許可となった場合、大学は一切責任を負いません。

[注] 留学生を対象とする授業料補助および大部分の各種奨学金は、在留資格「留学」の者を対象としています。

9 合格発表

合否は、2026年11月24日（火）15:00～11月26日（木）17:00にWeb出願サイトにて発表します。
電話での問い合わせには応じません。

合格者には、合格通知書とともに、入学手続きに必要な書類を出願時に登録した住所宛に郵送します。
別の住所に郵送を希望する場合は、合格発表期間前に入試課へご連絡ください。

10 問い合わせ先

【入試課】

TEL：03-6455-2754（日・祝除く 9:00～17:00）

メール：nyushi@tokyo-ondai.ac.jp

Ⅲ 試験科目

1 共通科目試験

- 外国語：一般選抜・社会人特別選抜：60分／外国人留学生特別選抜：90分
英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語の中から、1ヶ国語を出願時に選択。
語学辞書の持ち込み可。ただし、一般辞典、事典ならびに電子機器類（電子辞書、携帯電話等）は持ち込み不可。
- 音楽史（60分）：西洋音楽史および日本音楽史
- 小論文（文字数自由、60分）：社会人特別選抜志願者、外国人留学生特別選抜志願者
- 面接：他大学からの一般選抜志願者、社会人特別選抜志願者、外国人留学生特別選抜志願者対象

社会人および外国人留学生特別選抜志願者は、外国語、音楽史、小論文の内、研究領域指定の2～3科目より1科目を選択の上、受験してください。音楽学研究領域および音楽教育研究領域の社会人特別選抜志願者は、外国語を必須とします。

共通科目表

専攻	研究領域	一般選抜			社会人特別選抜			外国人特別選抜				
		外国語	音楽史	小論文	外国語	音楽史	小論文	外国語	音楽史	小論文		
器楽	鍵盤楽器	○	○	/	いずれか1科目選択			いずれか1科目選択				
	弦楽器											
	管打楽器											
	室内楽											
声乐	独唱											
	オペラ											
作曲指揮	作曲				※	いずれか1科目選択		※	いずれか1科目選択		※	
	指揮											
音楽文化研究	音楽教育				※	○	/	※		いずれか1科目選択 いずれを選択した場合も、研究テーマに応じて口述試験の中で外国語能力を問う質問を含める。		※
	音楽学											
	ソルフェージュ	/	いずれか1科目選択		いずれか1科目選択							
	多文化音楽	※	いずれか1科目選択		※	いずれか1科目選択		※				
	吹奏楽	/	いずれか1科目選択		いずれか1科目選択							

※専攻別課題にて別途小論文を課す。詳細は専攻別課題表を参照。

2 専攻科目試験

- 出願後、受験曲や志望する専攻の変更は認めません。
 - 共演者を必要とする場合は、志願者が同伴してください。
 - 伴奏者、譜めくりを必要とする場合は、志願者が同伴してください。伴奏はピアノ伴奏のみとします。
- ※伴奏者、共演者および譜めくりは志願者の責任と負担で用意してください。海外在住等、遠隔地からの志願者で伴奏者を用意できない場合は、2026年9月9日(水)までに入試課にご相談ください。
- ※専攻別課題表に特に指示がない限り、ピアノ伴奏を必要とする編成の作品（編曲を含む）を、伴奏なしで演奏することはできません。必ず伴奏者を同伴してください。該当作品を伴奏者なしで演奏した場合はそれ以降の受験はできなくなり、受験済みの入試結果についても無効とします。また、入学検定料は返還しません。
- ※同一のピアノ伴奏者や共演者が、複数の志願者を担当する場合、ピアノ伴奏者等が直前練習に立ち合えない可能性があります。
- ※大学の指定する時間に受験してください。志願者やピアノ伴奏者または共演者の事情で試験順の調整はしません。
- ※受験者、伴奏者、共演者いずれも、試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ウェアラブル端末（腕時計型等）を身につけたり、作動させたりすることはできません。「入学者選抜試験における不正行為について」をご参照ください。
- ※楽譜を使用する場合は、受験者、伴奏者、共演者いずれも、紙のものをご用意ください（電子楽譜は使用不可）。

●専攻別課題表

器楽専攻

研究領域		課 題
鍵盤楽器	ピアノ	<p>1. J.S. バッハ：平均律クラヴィーア曲集第Ⅰ・Ⅱ巻より任意の1曲 ※ 当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。</p> <p>2. 下記のエチュードより任意の1曲 ショパン、リスト、ラフマニノフ、ドビュッシー、スクリャーピン、バルトーク、ストラヴィンスキー、シマノフスキ、プロコフィエフ、メシアン、リゲティ、カプースチン</p> <p>3. バロック・古典・ロマン・近現代期より異なった2つ以上の時代から任意の2曲以上。楽章の抜粋可。</p> <p>※ 1～3を合わせて25分以上30分程度にまとめ、暗譜で演奏すること。 繰り返しは任意。 ※ 1～3の順で演奏すること。 ※ 楽章や曲目ごとの演奏時間を曲目記入票に明記すること。</p>
	チェンバロ	<p>1. W.バードまたはJ.P.スウェーリンクによるファンタジア、またはG.フレスコバルディのカプリッチョの中から1曲</p> <p>2. 任意のプレリュード・ノン・ムジュレまたはトンボーを1曲</p> <p>3. J.S. バッハ：イギリス組曲 BWV 806-811 または パルティータ BWV 825-830 より任意の1曲(全楽章)</p> <p>4. 5分以内の自由曲(ただし上記1～3で選択した作曲家以外の作品とする)</p> <p>5. 通奏低音 ※以下のa.またはb.から志願者が選択する。 a. 以下の①または②の中から1曲選び、志願者が同伴する共演者とともに演奏する。 ① G.F.ヘンデルの通奏低音付きソロソナタから1曲(全楽章)を上声楽器(フルートやヴァイオリンなど)との2重奏の形で演奏する。なお、共演楽器がフラウト・トラヴェルソ、バロックオーボエ、リコーダー、バロックヴァイオリンの場合にはピッチをa1=415とする。また、モダンのフルート、ヴァイオリン、オーボエの場合には、a1=442とする。 ② C.モンテヴェルディまたはG.フレスコバルディの独唱と通奏低音のための作品(オペラの1場面を含む)5分以内。声種は問わない(移調は自由)。ピッチはa1=415とする。</p> <p>b. 当日課される数字つき低音課題を、1分程度の予見ののちに(上声部奏者なしで)チェンバロで演奏する。</p> <p>※ 楽器は二段鍵盤チェンバロ(音域FF～f3、8'8"4、a1=415) ※ 暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、受験者、共演者いずれも、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p>
	オルガン	<p>1. 次の(1)(2)のどちらかを選択すること。 (1) J.S. バッハ：18 コラール集の以下の作品から任意の1曲 BWV 652, 653, 654, 659, 662, 663 (2) フランス古典音楽のクロモルス・アン・タイユもしくはティエルス・アン・タイユの任意の1曲</p> <p>2. D.ブクステフーデ、N.ブルーンズ、V.リュウベックの大規模なPraeludiumまたはTocatta(ペダル付)から任意の1曲</p> <p>3. J.S. バッハ：トリオ・ソナタから任意の1曲(全楽章、繰り返し省略)</p> <p>4. J.S. バッハの以下の作品から任意の1曲 BWV 532, 535, 537-548, 550, 564, 566</p> <p>5. ロマン派、現代のオルガン作品から任意の1曲</p> <p>※ 試験当日以前にレジストレーションのための若干の練習時間を与える。 ※ アシスタントを同伴する場合は、Web出願サイトの志願者情報入力画面に入力してください。 ※ オルガンにはスウェル・ペダルおよびフリーコンビネーション装置はないので注意のこと。 ※ 1～5のうち、数曲を当日指定する。 ※ 暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p>

研究領域		課 題
鍵盤楽器	伴奏	<p>1. 次のAまたはBどちらかを選び、暗譜で演奏する。Bの繰り返しがある場合は任意とする。</p> <p>A. ショパンの練習曲より1曲(op.10 no.6, op.25 no.7を除く) B. モーツァルトまたはベートーヴェンの任意のソナタよりテンポの速い1つの楽章(5分程度)</p> <p>2. 次の(1) (2)のどちらかを選択すること。</p> <p>(1) 次のAB両方を演奏する。</p> <p>A. 次の歌曲の中から1つを選択</p> <p>① シューベルト：ガニュメート D544 op.19 no.3 ② シューマン：『リーダークライス』 op.39よりno.3「森の対話」 ③ ブラームス：便り op.47 no.1 ④ ヴォルフ：『アイヒェンドルフ歌曲集』より no.3「秘めた愛」 ⑤ R. シュトラウス：変わらぬもの op.69 no.3 ⑥ フォーレ：ネル op.18 no.1 ⑦ 團伊玖磨：『わがうた』より「ひぐらし」</p> <p>B. 次の①～③の中から1つを選択</p> <p>① モーツァルトのヴァイオリン・ソナタ K.454 または K.526 (全楽章) ② ベートーヴェンまたは、ブラームスの任意のヴァイオリンまたはチェロ・ソナタ(全楽章) ③ ブラームスの任意のクラリネット・ソナタ(全楽章) (ヴィオラとの共演でも可)</p> <p>(2) 次のAB両方を演奏する。</p> <p>A. 次の①～③の中から1つを選択</p> <p>① モーツァルトのヴァイオリン・ソナタ K.454 または K.526 (第1楽章のみ) ② ベートーヴェンまたは、ブラームスの任意のヴァイオリンまたはチェロ・ソナタ(第1楽章のみ) ③ ブラームスの任意のクラリネット・ソナタ(第1楽章のみ) (ヴィオラとの共演でも可)</p> <p>B. 次の①～④の中から1つを選択</p> <p>① ブラームス： ・もし私が帰り道を知っていたなら op.63 no.8 ・愛の歌 op.71 no.5 ・甲斐なきセレナーデ op.84 no.4 ・ぼくらはさまよい歩いた op.96 no.2 ・セレナーデ op.106 no.1 上記の歌曲(計5曲)を全曲演奏すること。順番は自由。</p> <p>② R. シュトラウス： ・セレナーデ op.17 no.2 ・矢車菊 op.22 no.1 ・黄昏の中の夢 op.29 no.1 ・愛を抱いて op.32 no.1 ・ばらのリボン op.36 no.1 上記の歌曲(計5曲)を全曲演奏すること。順番は自由。</p> <p>③ フォーレ：5つのヴェネツィアの歌 op.58 (全曲) ④ 團伊玖磨：五つの断章(全曲)</p> <p>※ (1) (2)とも暗譜の必要なし。繰り返しは任意。 ※ 募集要項に記載された順で演奏すること。 ※ 楽章や曲目ごとの演奏時間を曲目記入票に明記すること。 ※ それぞれの課題に応じて、声楽、器楽の共演者を伴うこと。楽譜を使用する場合は、受験者、共演者いずれも、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p>

研究領域	課題
弦楽器 <small>※繰り返しは任意 ※暗譜で演奏すること</small>	ヴァイオリン 1. パガニーニ：カプリス より任意の1曲 2. J. S. バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ より任意のフーガ 3. 任意の協奏曲より第1楽章(カデンツァを含む) ※ 1～3を合わせて30分以内にまとめること。 ※ 1～3の順で演奏すること。 ※ 3については、ピアノ伴奏をつけること。伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。
	ヴィオラ 1. J.S. バッハ：無伴奏チェロ組曲または無伴奏ヴァイオリン・ソナタ より任意の1曲 2. 任意の古典派協奏曲の第1楽章(カデンツァを含む) 3. 任意の近現代協奏曲の第1楽章 ※ 1～3を合わせて30分以内にまとめること。 ※ 1～3の順で演奏すること。 ※ 2、3については、ピアノ伴奏をつけること。伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。
	チェロ 1. ポッパー：40の練習曲op.73より任意の1曲 2. J.S. バッハ：無伴奏チェロ組曲より任意のプレリュード 3. 任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章(カデンツァを含む) ※ 1～3を合わせて30分以内にまとめること。 ※ 1～3の順で演奏すること。 ※ 3については、ピアノ伴奏をつけること。伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。
	コントラバス ディッターズドルフ：コントラバス協奏曲 ホ長調 全楽章 (グルーバー版。カデンツァを含む) ※ ソロチューニング、オーケストラチューニングいずれも可。 ※ ピアノ伴奏をつけること。伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。
	ハープ 1. ヘンデル：ハープ協奏曲 変ロ長調 全楽章(グランジャーニー版) 2. 以下より1曲、または同程度の難易度、演奏時間の自由曲1曲 ・サルツェード：古代様式による主題と変奏 ・グランジャーニー：狂詩曲 ※ 1、2の順で演奏すること。 ※ ピアノ伴奏なし。
	クラシックギター 1. J. S. バッハ：リュート組曲より任意のプレリュード 2. ヴィラ＝ロボス：エチュードより1曲 3. 任意のギター協奏曲より任意の1楽章 ※ 1～3の順で演奏すること。 ※ 3については、ピアノ伴奏をつけること。伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。

研究領域		課 題
管打楽器	管楽器	<p>20分から30分程度の任意の独奏曲。時代様式の異なった複数の曲が望ましく、少なくとも1曲はピアノ伴奏付であること。</p> <p>※ 暗譜の必要なし。 ※ 曲目記入票に記載した順番で演奏すること。 ※ 当日、演奏箇所等について指定される場合がある。試験委員の指示に従って演奏すること。 ※ 楽譜を使用する場合は、受験者、伴奏者いずれも、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。</p>
	打楽器	<p>20分から30分程度の任意の独奏曲。様式の異なった複数の曲が望ましく、1曲はピアノ伴奏付であること。</p> <p>※ 暗譜の必要なし。 ※ 演奏する楽譜のコピー(製本はしないこと)、所定の楽器等使用一覧、セッティング表を出願時に提出のこと。 ※ 曲目記入票に記載した順番で演奏すること。 ※ 当日、演奏箇所等について指定される場合がある。試験委員の指示に従って演奏すること。 ※ 楽譜を使用する場合は、受験者、伴奏者いずれも、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。</p>
室内楽	<p>● 1グループの構成は、2名以上6名以内とする。全員が各々出願書類を提出し、曲目記入票に全員の氏名、楽器名等を記入すること。</p> <p>1. 20分程度の任意の曲(複数曲も可)。邦楽器については事前に問い合わせること。 ※ 暗譜の必要なし。 ※ 楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p> <p>2. 口述試問</p>	

声楽専攻

- いずれも暗譜で演奏のこと。
- 専攻内での併願について：オペラ研究領域を第1志望とする場合に限り、独唱研究領域との併願が可能。

研究領域	課 題
独 唱	<p>歌曲、オペラ、オラトリオより任意の4曲を提出し、うち3曲を以下の順で演奏する。</p> <p>1. 任意の4曲のうち、1曲を志願者が選択。 2. 上記1を除く3曲より、本学が当日2曲指定する。</p> <p>※ 演奏を途中で打ち切ることもある。 ※ 全体で2か国語以上の作品を用意すること。 ※ ピアノ伴奏をつけること。伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。</p>
オペラ	<p>任意のオペラアリアを4曲、任意の歌曲を2曲提出し、うち3曲を以下の順で演奏する。</p> <p>1. 任意のオペラアリア4曲のうち、1曲を志願者が選択。 ※ 一、二歩程度の範囲内で簡単な演技をつけること。5分程度にまとめること。 2. 上記1を除く3曲より、本学が当日1曲指定する。 ※ 演技の必要なし。 3. 任意の歌曲2曲より、本学が当日1曲指定する。</p> <p>※ 演奏を途中で打ち切ることもある。 ※ 全体で2か国語以上の作品を用意すること。 ※ 助演なし。 ※ ピアノ伴奏をつけること。伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。 ※ 伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。</p>

研究領域	課 題
作 曲	<p>1. 楽譜による作品提出</p> <p>①管弦楽曲 1曲(独奏、独唱を伴う協奏的作品も可)</p> <p>②室内楽曲 2曲(うち1曲は独奏曲も可・声楽を含む作品も可)^(注)</p> <p>※2026年10月30日(金) 17:00までに①と②の両方の楽譜を以下の方法でデータおよび紙媒体で提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データは、PDFまたはJPEG (JPG)ファイルにて入試課宛てにメールで提出。 送信先：nyushi@tokyo-ondai.ac.jp 件名：受験番号__氏名__修士作品提出 ファイル名：受験番号__作品名 ・紙媒体は、持参または郵送にて入試課に提出(製本はしないこと。原譜の提出は認めない。原譜の鮮明な写し、またはコピーを提出すること)。郵送の場合は簡易書留等追跡できる送付方法とし、提出期日までの必着とする。 <p>※①②とも提出楽譜の大きさはA3までの印刷サイズとする。</p> <p>※①②とも1作品につき800字程度(日本語)の作品に関する解説を添付すること。</p> <p>※作品表紙、解説に受験番号、氏名および作品名を記入のこと。</p> <p>(注) ②の室内楽曲については「応用研究」を受験する場合、打ち込みを含む小編成の作品も可。その場合は、wav, mp3等の互換性が高いオーディオファイルでUSBメモリで提出すること。楽譜も必ず提出すること。</p> <p>2. 小論文(課題は当日指定する。文字数1200~2000字、90分)</p> <p>3. 口述試問 予備質問書に記入し、願書と共に提出のこと。</p>
指 揮	<p>1. 聴音(単旋律、複旋律および木管四重奏)</p> <p>2. 新曲視唱(各種音部記号による。ただし、メゾ・ソプラノ、バリトン記号を除く)</p> <p>3. 簡単な旋律のピアノ初見弾き歌い</p> <p>4. スコアリーディング(2管編成程度の管弦楽曲)</p> <p>5. 指揮実技(演奏は2台のピアノによる)</p> <p>a) 初見曲</p> <p>b) ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲 ※b)は暗譜で演奏(指揮)すること</p> <p>6. 演奏実技(ピアノを含む任意の楽器を演奏)※声楽を含まない ※暗譜の必要なし。ピアノ以外の楽器で演奏する場合、ピアノ伴奏なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p> <p>7. 和声(バス・ソプラノ課題 [中級程度] 90分)</p> <p>8. 小論文(課題は当日指定する。文字数自由、90分)</p> <p>9. 口述試問</p>

研究領域	課 題
音楽教育	<p>1. 筆記試験：音楽教育についての小論文(課題は当日指定する。文字数自由、90分)</p> <p>2. 口述試問(任意の演奏手段による音楽実技試験を含む) ※実技の種類と楽曲は自由とし、演奏時間は5分程度とする(演奏を途中で打ち切ることもある)。 ※伴奏者が必要な場合は各自用意すること。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、受験者、伴奏者いずれも、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p>
音楽学	<p>1. 筆記試験：音楽学に関する小論文(課題は当日指定する。文字数自由、90分)</p> <p>2. 口述試問</p>

研究領域	課 題
ソルフェージュ	<p>1. ソルフェージュ実技試験</p> <p>a) 聴音(単旋律、複旋律および四声体和声)</p> <p>b) 新曲視唱(各種音部記号による。ただしメゾ・ソプラノ、バリトン記号を除く)</p> <p>c) ピアノによる初見演奏</p> <p>2. 実技試験</p> <p>以下の①②よりいずれか一つを選択すること。</p> <p>① 器楽または声楽(暗譜)：自由なプログラムによる8分以上15分以内の演奏(伴奏者が必要な場合は各自用意すること。出版されていない楽曲を演奏する場合は楽譜を提出すること)。志願者情報入力画面には演奏楽器名を入力のこと。</p> <p>※伴奏者が楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p> <p>② 楽譜による作品提出：任意の編成による作品2曲以上提出。</p> <p>※2026年10月30日(金)17:00までに②の楽譜を以下の方法でデータおよび紙媒体で提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データはPDFファイルにて入試課宛てにメールで提出。 送信先：nyushi@tokyo-ondai.ac.jp 件名：受験番号(Sol)__氏名__修士作品提出 ファイル名：受験番号(Sol)__作品名 ・紙媒体は、郵送にて入試課に提出(製本はしないこと。原譜の提出は認めない。原譜の鮮明な写し、またはコピーを提出すること)。郵送方法は簡易書留等追跡できる送付方法とし、提出期日までの必着とする。 <p>※提出楽譜の大きさはA3までの印刷サイズとする。</p> <p>※作品表紙に受験番号、氏名および作品名を記入のこと。</p> <p>3. ピアノ実技</p> <p>上記2の①でピアノ演奏を選択しない者および②の該当者。</p> <p>課題曲 J.S.バッハ平均律クラヴィーア曲集 第I・II巻より任意の1曲(前奏曲とフーガ)</p> <p>4. 口述試問</p> <p>※2の①、3は暗譜で演奏すること。</p>
多文化音楽	<p>1. 多文化音楽研究に関する小論文(課題は当日指定する。文字数自由、60分)</p> <p>2. 筆記試験あるいは実技試験</p> <p>以下の①②のいずれか一つを選択すること。</p> <p>① 筆記試験(当日指定する複数課題に関する短文、60分)</p> <p>② 実技試験</p> <p>志願者情報入力画面には演奏実技名を入力してください。次の実技のなかから、自由なプログラムによる15分から20分程度の演奏(アイヌ伝統音楽(トンコリ)、インド音楽(シタール)、インドネシア音楽(ジャワガムラン、ジャワ舞踊)、キルギス音楽(コムズ)、中国音楽(二胡、古箏、古琴、笛子)、邦楽(箏曲、尺八、三味線等)、モンゴル音楽(馬頭琴))</p> <p>※この他の実技については問い合わせのこと。</p> <p>※出願時に持参する楽器名と台数を明記すること。</p> <p>※暗譜で演奏すること。</p> <p>※電源を必要とする楽器や機器(パソコン、音量を増幅する機器等)の使用は認めない。</p> <p>※伴奏者が必要な場合は各自用意すること。原則ピアノ伴奏に限る。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p> <p>※伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。</p> <p>3. 口述試問</p>
吹奏楽	<p>1. 任意の管楽器・打楽器・コントラバス・ハープによる演奏</p> <p>曲は、任意の独奏曲とする。複数曲の組み合わせも可で、全体で15分程度にまとめること。</p> <p>※暗譜の必要なし。繰り返しは任意。楽譜を使用する場合は、受験者、伴奏者いづれも、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。</p> <p>※伴奏については、前奏や間奏が長い場合には、適宜カット可。</p> <p>※打楽器で演奏する者は、演奏する楽譜のコピー(製本はしないこと)、所定の楽器等使用一覧、セッティング表を出願時に提出のこと。</p> <p>2. 口述試問</p> <p>予備質問書に記入し、願書と共に提出のこと。</p>

入学者選抜試験における不正行為について

※大学院音楽研究科の受験における不正行為についてもこの取扱いに準じます。

受験の際には、すべて試験監督の指示に従ってください。以下に該当する場合、不正行為とみなされます。

1. 出願の際に本学に提出した書類・資料等に偽造、虚偽の記載、剽窃が見つかった場合
2. 受験者以外の者が、受験者本人になりすまして試験を受けた場合
また、以下の行為をすると、不正行為とみなされる場合があります。
 - ・カンニング（カンニングペーパーや参考書、他の受験者の答案を見ること、他の受験者から答えを教わること等）をすること。
 - ・使用を認められていない用具を使用すること。
 - ・試験開始の合図の前に問題冊子を開き、解答を始めること。
 - ・試験終了の合図の後に筆記用具や消しゴムを持ち続ける、または解答を続けること。
 - ・試験時間中に、他の受験者に答えを教えるなど、他の受験者を利する行為。
 - ・試験時間中に、他の受験者に迷惑となる行為。
 - ・試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ウェアラブル端末（眼鏡型・腕時計型等）、イヤホン等を身につける、または作動させること。
 - ・試験期間中に、本学構内において入学者選抜試験に関する問題および解答用紙、試験室・控室等の会場、掲示物等を写真または動画で撮影する行為、またはそれらをSNS等インターネット上へ掲載する行為。
 - ・非対面式試験において、「同意書」に記載の内容に反する行為。
 - ・受験時の写真照合において、本人確認が困難となる程度の加工・修正を施した写真を用いてWEB出願登録を行うこと。
 - ・その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

試験実施中に不正行為と思われる行為が認められた場合、試験監督が注意し、試験の中止や退室を指示することがあります。不正行為の疑いに対処した時間があっても、その受験者は、試験時間の延長を求めることはできません。

不正行為と認められた場合、それ以降の受験はできなくなり、当該年度における本学のすべての入学試験の結果を無効とします。また、入学検定料は返還しません。

Ⅳ 入学手続

1 入学手続

入学手続の流れは以下のとおりです。期間内に(1)(2)の手続きを完了しない者は、入学の意志がないものとして合格を取り消します。

(1) 入学金・学費等の納入 → (2) 入学手続書類郵送 → (3) 入学許可

(1) 入学金・学費等の納入

2026年11月25日(水)～12月2日(水)(必着)までに入学金・学費等を納入するとともに、(2)の書類を簡易書留にて入試課に郵送してください。最終日の消印有効。

※入学金・学費等の納入期日は、必ず大学の口座に入金される日であること。

(2) 入学手続に必要な書類

- ① 誓約書・個人情報の取扱いに関する同意書(本学所定の用紙)
- ② 住民票または住民票記載事項証明書(3か月以内のもの)
- ③ 卒業証明書および成績証明書、学位授与証明書等(2027年3月卒業見込みの者は、卒業後提出)
- ④ 学生証用写真
- ⑤ その他本学が提出を指示したもの

※詳細は入学手続書類に同封される案内をご確認ください。

※学士の学位が得られなかった場合は、その旨をすみやかに入試課にご連絡ください。

※提出された書類の記載事項に虚偽が判明した場合、合格または入学を取り消します。

(3) 入学許可

手続き完了の者には、入学許可書を交付します。

(4) 入学辞退

入学を辞退する場合は、2027年3月30日(火)11:30までに入試課に申し出てください。

なお、納入済みの入学金はいかなる理由があっても返還しません。

手続方法の詳細は、入学手続書類に同封される案内をご確認ください。

※室内楽研究領域はグループ全員が入学できなかった場合は、合格は取り消しとなります。

2 学費その他の納入金 (2026年度入学者実績・参考)

[1] 学費

納入時期	入学金(※1)	授業料	施設等維持費	合計
春学期	350,000円	590,000円	125,000円	1,065,000円
秋学期	—	590,000円	125,000円	715,000円

※1 本学の学部卒業生 170,000円

[2] 学費以外の諸費用

納入時期	後援会入会金(入学時)※2	後援会費(毎年)
春学期	10,000円	5,000円
秋学期	—	5,000円

※2 本学の学部卒業者は後援会入会金免除

[3] その他(履修者のみ)

実習費(オペラ研究領域2年次)	第二副科実技(年額)
50,000円	100,000円

学費に関する最新情報は以下のリンクよりご確認ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/about/expenses>



学費および学費の取り扱いは、今後変更となる場合があります。

本学では一部の授業でPCが必須になるため、個人所有のモバイルPCを大学の授業等で利用するBYOD (Bring Your Own Device : PCの必携化)を実施しており、ご自身でPCと自宅のネットワーク環境をご用意いただく必要があります。

なお、求められるスペック等については入学後に各専攻でご案内いたしますので、入学前に購入を急ぐ必要はありません。

V 奨学金・経済的支援制度

本学の奨学金・経済的支援制度については、以下のリンクをご覧ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/12765.php>



VI 成績開示

修士課程入学試験の成績開示については、入学試験を受験して不合格であった者から開示請求があった場合、下記のとおり行います。

① 開示方法

申請書を受理した日から30日以内に、開示内容を記載した書面を受験者本人宛に特定記録郵便にて送付します。なお、郵送が可能な日本国内在住の受験者本人のみ申請いただけます。

② 開示申請期間

2026年11月25日(水)～12月2日(水)(必着)

③ 開示の請求方法

受験票、返信用封筒(返信先を明記し、320円切手を貼付した定型封筒)および申請書*を同封の上、「入学試験成績開示請求」と朱書きをして、特定記録郵便により入試課へ送付してください。

*申請書には次の(1)から(3)の事項を記載してください(様式自由)。

(1)氏名 (2)受験番号 (3)出願の専攻・研究領域・楽器等

VII 個人情報の取り扱いについて

1 個人情報の取り扱いについて

- ①本学は、志願者の出願書類に記載された個人情報および入学試験の成績を入学試験業務に利用します。なおこれらの個人情報は個人情報保護法に則り万全の体制で管理します。
- ②本学は、上記の個人情報を大学入学者選抜および大学教育の改善のための調査・研究や学術研究の資料としても利用します。調査・研究結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。
- ③本学は、願書記載事項のコンピュータ登録業務、受験票、合格通知書、入学手続書類等の発送の業務を、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者へ委託する場合があります。

2 個人情報の管理・保管について

本学は、志願者の方々から提供を受けた個人情報を学校法人東京音楽大学個人情報保護規程に従い、厳重な管理体制の下で管理・保管し、志願者の方々の個人情報が第三者に漏洩しないようにいたします。

東京音楽大学

【中目黒・代官山キャンパス】

〒153-8622 東京都目黒区上目黒1-9-1

【池袋キャンパス】

〒171-8540 東京都豊島区南池袋3-4-5

ホームページアドレス <https://www.tokyo-ondai.ac.jp/>

お問い合わせ先： 03-6455-2754 (TEL) 日・祝日除く 9:00~17:00

03-6455-2774 (FAX)

nyushi@tokyo-ondai.ac.jp (メール)

中目黒・代官山キャンパス

私鉄 東急東横線「代官山駅」正面口より徒歩約5分

東急東横線「中目黒駅」正面改札より徒歩約5分

地下鉄 日比谷線「中目黒駅」正面改札より徒歩約5分

J R 「恵比寿駅」西口より徒歩約14分

池袋キャンパス

地下鉄 副都心線「雑司が谷駅」より徒歩約5分

丸ノ内線・有楽町線「池袋駅」より徒歩約15分

有楽町線「東池袋駅」より徒歩約15分

J R 「池袋駅」東口または「目白駅」より徒歩約15分

私鉄 西武池袋線・東武東上線「池袋駅」より徒歩約15分

バス 「南池袋一丁目」より徒歩約3分

都電 都電荒川線「鬼子母神前停留場」より徒歩約5分

〈アクセス〉



<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/about/access>

TCM

Tokyo College of Music Graduate School

東京音楽大学大学院